



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566009003	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(経済学的に考えよう)		
編集担当教員	赤石 孝次		
授業担当教員名(科目責任者)	赤石 孝次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤石 孝次		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]104		
対象学生(クラス等)	1年、2年、3年、4年		
担当教員Eメールアドレス	akaishi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館(片淵キャンパス)6階632号		
担当教員TEL	Ext)6330		
担当教員オフィスアワー	金曜日12:00～13:00		
授業のねらい	経済学がもつ形式論理性に触れることで、論理的に考えることに慣れることを目的とする。具体的には、論理的に表現することを身につけることで、他者を説得する能力を涵養する。		
授業方法(学習指導法)	レジュメを中心に授業を行い、必要に応じて参考文献を紹介する。また、Questioning and Answering方式を多用した授業を行うことで、知識の定着とその活用能力を高める。		
授業到達目標	①現代経済社会に関する幅広い知識および思考方法を身につける(知識・理解・技能) ②自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる(技術・表現)		
授業内容	回	内容	
	1	論理的思考方法とデータの基礎 —「議論」とは何か、議論可能な話題とは?—	
	2	論理的思考方法とデータの基礎 —論理の基本—	
	3	論理的思考とデータの基礎 —データの利用方法—	
	4	経済学の基本設定	
	5	経済学の基本設定	
	6	経済学の基礎理論	
	7	経済学の基礎理論	
	8	データと理論	
	9	日本経済を考える前提	
	10	平成不況を考える	
	11	平成不況を考える	
	12	平成不況を考える	
	13	日本経済に出口はあるのか	
	14	日本経済に出口はあるのか	
15	日本経済への処方箋		

	16 期末試験
キーワード	希少性、インセンティブ、ノーフリーランチ、情報、競争均衡、最適化、期待等
教科書・教材・参考書	とくに指定しない。
成績評価の方法・基準等	講義中のQ&Aおよび練習問題(40%) 定期試験(60%)
受講要件(履修条件)	とくになし。
本科目の位置づけ	高校教育と専門課程教育との橋渡し。
学習・教育目標	高校までの受け身の学習から脱却し、能動的な学習態度を身に付ける。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566009004	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(経済発展)		
編集担当教員	青山 繁		
授業担当教員名(科目責任者)	青山 繁		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	青山 繁		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]321		
対象学生(クラス等)	全学部生		
担当教員Eメールアドレス	aoyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館602		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	火曜日16:00-17:00		
授業のねらい	経済発展について、理論と現実を理解する。		
授業方法(学習指導法)	どうすれば経済発展するのかを研究する学問である開発経済学の入門的なテキストを用いて、経済発展について広く学ぶ。		
授業到達目標	発展途上国がどうすれば経済発展するのかについて自分の頭で考えられるようになること。		
授業内容	テキストに沿って、経済発展のための理論とアジア諸国を中心にその現実を学んでいく。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	テキスト序章 開発経済学を学ぼう	
	3	テキスト第1章 「マルサスの罠」ー貧困のメカニズムを探る	
	4	テキスト第2章 人口転換ー人間はどのように「増殖」するのか	
	5	テキスト第3章 少子高齢化ーアジアの人口はまもなく減少する	
	6	テキスト第4章 「緑の革命」ー農業の技術進歩はいかにしておこなうか	
	7	テキスト第5章 工業発展Ⅰー工業化はいかにして開始されるか	
	8	テキスト第6章 工業発展Ⅱー初期条件と工業化政策	
	9	テキスト第7章 貿易と海外直接投資ーアジアを興隆させたもの	
	10	テキスト第8章 社会主義から市場経済へー中国の体制転換	
	11	テキスト第9章 日本の政府開発援助ー自助努力支援の旗を高く掲げよ	
	12	テキスト第10章 グローバリゼーションのなかのアジアー2つの経済危機	
	13	テキスト第11章 アジア経済の新動態ー「アジア化するアジア」	
	14	テキスト終章 本章のまとめ	
15	全体の総括		
16	定期試験		
キーワード	経済発展論、アジア		

教科書・教材・参考書	テキストとして以下を使用。 渡辺利夫『開発経済学入門(第3版)』東洋経済新報社、2010年
成績評価の方法・基準等	期末試験による。
受講要件(履修条件)	特になし。
本科目の位置づけ	経済発展に興味を有する学生がより高度な学習をするための予備的な科目
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566009007	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(現代の経済と中小企業経営)		
編集担当教員	桃井 謙祐		
授業担当教員名(科目責任者)	桃井 謙祐		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	桃井 謙祐		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	momoi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所3階311号室		
担当教員TEL	095-820-6404		
担当教員オフィスマナー	講義終了後またはEメールでアポイントをとってください(momoi@nagasaki-u.ac.jp)		
授業のねらい	現代社会を生きる上で、誰にとっても経済について理解することの重要性は増している。現代の経済を理解する上で必要な経済学の基礎について学んだ後、日本経済の動向について概観する。また、経済社会の変化の中で、その重要性が増してきている中小企業やベンチャー企業において、いかなる経営が求められるかについて概観する。		
授業方法(学習指導法)	講義を中心に進めるが、受講者数や講義の進捗状況等によっては、受講者とのディスカッションを行いながら授業を行う。		
授業到達目標	経済学の基礎的な原理を習得する。日本経済のこれまでの流れについて概観し、日本経済の現状の背景を理解する。中小企業・ベンチャー企業の意義や、その特徴、求められる経営などについて理解する。		
授業内容	経済学の基礎を学び、経済を眺める目を養った後、第二次世界大戦後から現在に至るまでの日本経済の流れについて概観する。 さらに、現代の経済において重要性が高まっている中小企業・ベンチャー企業の経営について概説する。 なお、内容については、授業の進行に応じて前後することがある。 また、企業の経営者等による特別講義を設ける可能性がある(特別講義の有無及びその時期については、外部講師との調整により決定する)		
	回	内容	
	1	ガイダンス	
	2	経済学の基礎(1)	
	3	経済学の基礎(2)	
	4	経済学の基礎(3)	
	5	日本経済・日本企業をめぐる歴史(1)	
	6	日本経済・日本企業をめぐる歴史(2)	
	7	日本経済・日本企業をめぐる歴史(3)	
	8	中小企業とは何か	
	9	中小企業のマネジメントと戦略(1)	
	10	中小企業のマネジメントと戦略(2)	
	11	中小企業のマネジメントと戦略(3)	
12	中小企業のマーケティング(1)		

	13 中小企業のマーケティング(2)
	14 中小企業の資金調達
	15 授業のまとめ
	16 期末試験
キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書は未定。授業初回までに決定する。 なお、参考書としては、以下のとおり。 伊藤元重『はじめての経済学(上)(下)』日本経済新聞出版社 伊藤元重『入門経済学(第3版)』日本評論社 野口悠紀雄『1940年代体制－さらば戦時経済(増補版)』東洋経済新報社 岩田喜久男『日本経済を学ぶ』筑摩書房 加護野 忠男、吉村 典久『1からの経営学』碩学舎
成績評価の方法・基準等	期末試験100%。 なお、授業中の優れた発言等、授業への貢献は加点を行う。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	授業中の私語等、非常識な態度は慎むこと。





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566009002	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(公共政策の経済学)		
編集担当教員	小野 隆弘		
授業担当教員名(科目責任者)	小野 隆弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小野 隆弘		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	全学年		
担当教員Eメールアドレス	t-ono@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部4階		
担当教員TEL	(内)2724		
担当教員オフィスアワー	火曜日13時～14時		
授業のねらい	経済学は、市場経済のメカニズム分析を基本にしているが、「市場の失敗」といわれる問題への公共政策も現代では重要な課題である。講義では、そのうち、生活リスクと環境リスクへの公共政策のあり方を説明する		
授業方法(学習指導法)	配布資料を基に講義と討議を組み合わせる。		
授業到達目標	公共政策のうち、社会保障と環境政策に焦点を絞り、ジャパニ・シンドロームの分析と政策的方途を習熟することを基本に据える。そのうえで、日欧の比較を通して、日本経済の基本問題についてデータの解析をふまえた専門知識と理論を自ら獲得できる。		
授業内容	回	内容	
	1	授業計画:公共政策の経済学	
	2	市場経済と公共政策:「市場の失敗」の諸相	
	3	公共対策における日欧比較の重要性	
	4	社会保障と環境政策	
	5	生活リスクと社会保障	
	6	年金の経済学	
	7	医療の経済学	
	8	福祉の経済学	
	9	社会保障論総括	
	10	環境リスクと環境政策	
	11	環境政策における政策手段	
	12	地球環境問題と再生可能エネルギー	
	13	環境税をめぐる日欧比較	
	14	排出量取引の光と影	
	15	政策統合	
16	試験		
キーワード	リスク、社会保障、環境政策、経済的手段、政策統合		

教科書・教材・参考書	参考文献を含め、授業のなかで指摘する
成績評価の方法・基準等	授業課題への取組状況:30%、授業でのミニテスト:20%、定期試験:50% を基本として評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	環境科学部の社会科学、政策科学の基本
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

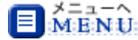


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文_社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	金1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566009001	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(現代経済学入門)		
編集担当教員	是枝 正啓		
授業担当教員名(科目責任者)	是枝 正啓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	是枝 正啓		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	1,2年		
担当教員Eメールアドレス	koreeda@nagasaki-ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館612		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後20分		
授業のねらい	経済理論(マクロ理論、ミクロ理論)の基本的知識および基礎理論を学ぶ。		
授業方法(学習指導法)	原則としてノート講義とする。		
授業到達目標	経済学の基礎的知識および理論を習得する。		
授業内容	授業内容(毎週の授業内容を含む) 授業内容(概要) まず、経済学はどのような学問か、経済学を学ぶためのポイントとしてどのようなものがあるか等を説明する。次に、マクロ理論の基礎である国内所得の発生とそのとらえ方について解説する。また、市場の役割と機能の理解のうえにミクロ理論の基礎である消費者の行動、生産者の行動の基礎を解説する。		
	回	内容	
	1	経済学とはどのような学問で、どのようなことを対象にするか。	
	2	経済学を学ぶための基礎的概念、知識を解説する。	
	3	市場の役割と機能。	
	4	経済循環と国内所得。	
	5	国民所得の測定基準。	
	6	有効需要とその波及。	
	7	完全競争と家計の行動(1)	
	8	完全競争と家計の行動(2)	
	9	完全競争と家計の行動(3)	
	10	完全競争と家計の行動(4)	
	11	完全競争と企業の行動(1)	
	12	完全競争と企業の行動(2)	
	13	完全競争と企業の行動(3)	
	14	不完全競争と企業の行動(1)	
15	不完全競争と企業の行動(2)		

	16 定期試験
キーワード	
教科書・教材・参考書	ノート講義とする。
成績評価の方法・基準等	定期試験によって成績を評価するが、ノート提出を求める場合はノートの評価も加味する。
受講要件(履修条件)	特になし。
本科目の位置づけ	経済関連科目の基礎理論。
学習・教育目標	経済学の基礎的知識および理論の習得。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566009008	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(現代の企業経営入門)		
編集担当教員	西村 宣彦		
授業担当教員名(科目責任者)	西村 宣彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西村 宣彦		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	nishimra@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館523号室		
担当教員TEL	095-820-6382		
担当教員オフィスアワー	授業終了後 メールでの事前連絡があれば可能な限り応じます。		
授業のねらい	「経営」と聞くと遠い将来のことのような気がするかもしれませんが、経営=Managementはすでに皆さんも受験勉強やクラブ活動を通じて実践していますし、社会人になると、どのような職業に就こうとも経営的な考え方が重要になります。本講義では経営にかかわる基本的な要素である「何をやるべきか」、「どのようにやるべきか」について自発的な学習によって学び取ることを狙いとしています。さらに、PBLという手法を使って、自ら学習する力、チームとして成し遂げる力、コミュニケーションの力を養います。		
授業方法(学習指導法)	PBL(Problem Based Learning)という手法を用います。高校までのように教師が知識を伝授するのではなく、自らチームの力で問題を発見し、解決策を探る学習方式をとります。 チームは6名で、教師とTAがチームをアシストしますが、主役はあくまでも学生である皆さんです。皆さんで学び取るべきことを決め、次回の授業までに自学した結果を発表し合って知識を共有し、さらに新たな知識の獲得を目指します。 受講者制限(最大60名)をしますので、受講したい方は初回必ず出席ください。		
授業到達目標	経営についての基礎的事項「経営戦略」、「経営組織」、「イノベーション」について理解でき、さらに知識を深めるための道筋が把握できる。 自ら問題を発見し、その解決策を探るという能動的な学習方法が習得できる。 チームで問題を解決するためのスキルを身に付けることができる。 コミュニケーション力を高め、他人に対して自分が言いたいことを正しく伝えるために必要なスキルを理解できる。		
	大学卒業後、起業する仮定の3つの物語(ケースと呼ぶ)を提供しますので、主人公が抱える課題の解決策を探ります。一つ一つの物語に取り組む期間をスプリントとよび、1スプリントに4回の授業をあてます。 ①スプリント1:経営戦略、マーケティングについて学習する ケースの概要 大学卒業時に起業を考えている長崎大学4年生の山田君をケースとして取り上げ、起業する分野をどのように選択すべきかについて学習し、経営戦略論、マーケティング論の基礎を学びます。 ②スプリント2:経営組織について学習する ケースの概要 起業した事業が成功をおさめます。従業員も増え、日本のみではなく中国にも事業所ができ、それとともに、どのように組織を管理するかが問題となり始める。このケースから、経営組織論の基礎を学びます。 ③スプリント3:イノベーション・MOTIについて学習する ケースの概要 この企業の成功を見て、この企業をモデルとした新規参入が相次ぐ。なかには既存の大企業も新規参入する。このなかで山田君の企業がどのように成長すべきかについて検討する。ここからナレッジマネジメント、イノベーションマネー		

授業内容	ジメント、MOTについての基礎的な知識を学びます。	
	回	内容
	1	シラバスの説明、授業の進め方の説明 受講制限(最大60名)をかけますので、この回の授業に必ず出席ください。
	2	チーム分け。 アイスブレイキング。 プロジェクト・マネージメントについての説明。
	3	スプリント1-1回目 ケースの説明 チームによる取り組み方針の検討・決定
	4	スプリント1-2回目 チームメンバーによる検討結果の報告 チーム議論 次週までの調査内容の決定
	5	スプリント1-3回目 チームメンバーによる検討結果の報告 チーム議論 プレゼン資料作成
	6	スプリント1-4回目 プレゼンテーション 補足講義
	7	スプリント2-1回目 ケースの説明 チームによる取り組み方針の検討・決定
	8	スプリント2-2回目 チームメンバーによる検討結果の報告 チーム議論 次週までの調査内容の決定
	9	スプリント2-3回目 チームメンバーによる検討結果の報告 チーム議論 プレゼン資料作成
	10	スプリント2-4回目 プレゼンテーション 補足講義
	11	スプリント3-1回目 ケースの説明 チームによる取り組み方針の検討・決定
	12	スプリント3-2回目 チームメンバーによる検討結果の報告 チーム議論 次週までの調査内容の決定
	13	スプリント3-3回目 チームメンバーによる検討結果の報告 チーム議論 プレゼン資料作成
	14	スプリント3-4回目 プレゼンテーション 補足講義
15	全体発表会	
16	授業まとめ	
キーワード	経営学 経営戦略論 経営組織論 マーケティング イノベーション MOT ナレッジマネージメント	
教科書・教材・参考書	授業中に若干のお手伝いはしますが、必要な教科書は自ら図書館に行き探してきます。	
成績評価の方法・基準等	試験は行いません。 各スプリントで受講者全員にチームで決めた課題が与えられるので、この課題を次回授業までに整理して報告資料を作成し、これをもとに発表し、その報告書を提出してもらいますので、その内容で成績を評価します。 さらに、議論への参加態度などを教員が判断して加減点します。	
受講要件(履修条件)	特になし。	
本科目の位置づけ	大学以降の学習形態である能動的学習の能力を高める。 社会人としての基礎的な素養を高める。	
学習・教育目標	組織経営に関する経営戦略論・経営組織論・マーケティング論、イノベーションマネージメントの概要が理解できる。 チームでの能動的学習を実践することによって、能動的学習の習慣を身につけることができる。 コミュニケーション能力を高めるために必要なスキルが理解でき、実践できる。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	特になし	



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1797秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566009005	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(経済学入門)		
編集担当教員	大倉 真人		
授業担当教員名(科目責任者)	大倉 真人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大倉 真人		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]321		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	okura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館609教室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	質問等は、講義終了後あるいはメールにて受け付ける。		
授業のねらい	本講義では、ミクロ経済学の基礎を学ぶことを目的とする。		
授業方法(学習指導法)	板書を主体とした講義形式にて行う。		
授業到達目標	個々の主体の経済行動についての基礎知識の修得を講義目標とする。		
授業内容	本講義では、主として教科書の第1章から第4章までを取り扱う。 以下のスケジュールで講義を行う予定であるが、履修者の理解度等により変更する可能性がある。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の方法などについての説明)および「経済学とは？」(第0章)	
	2	「企業行動の分析」(第1章)①	
	3	「企業行動の分析」(第1章)②	
	4	「企業行動の分析」(第1章)③	
	5	「消費者行動の分析」(第2章)①	
	6	「消費者行動の分析」(第2章)②	
	7	「消費者行動の分析」(第2章)③	
	8	「消費者行動の分析」(第2章)④	
	9	「市場均衡と厚生分析」(第3章)①	
	10	「市場均衡と厚生分析」(第3章)②	
	11	「市場均衡と厚生分析」(第3章)③	
	12	「不完全競争」(第4章)①	
	13	「不完全競争」(第4章)②	
	14	「不完全競争」(第4章)③	
	15	「不完全競争」(第4章)④	
16	定期試験		
キーワード	ミクロ経済学		

教科書・教材・参考書	教科書：TAC公務員講座(編)『新装版 公務員Vテキスト8 ミクロ経済学(新版)』TAC出版、2007年。
成績評価の方法・基準等	定期試験70%、授業への参加度30%(第1回目の授業から評価対象となっているので注意すること)。なお詳細については、第1回目の授業において説明する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	簡単な数学(微分、最大化・最小化)については、高校で学習済みとみなして講義を行う(どの程度の数学を利用するかを知りたい履修(予定)者は、教科書末尾の「数学付録」を参照のこと)。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566009006	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(経営学入門)		
編集担当教員	宇都宮 謙		
授業担当教員名(科目責任者)	宇都宮 謙		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇都宮 謙		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]430		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	yuzuru@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所209		
担当教員TEL	095-820-6384		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・現代企業の生成・発展を、形態と管理手法という観点から理解すること。 ・各専門科目がいかなる背景を有して成立しているか把握すること。 		
授業方法(学習指導法)	講義と定期試験。		
授業到達目標	上記観点について、概念と現象とを対応させることができるようになる。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション:講義目標と方法について説明する。	
	2	企業形態1/2:資金調達法に着目、株式会社生成に至る過程を概説する。	
	3	企業形態2/2:株式会社における周遊と経営の分離とその問題点について論じる。	
	4	企業組織1/2:ライン組織やライン=スタッフ組織など諸形態について、発生と長短を論じる	
	5	企業組織2/2:事業部制生成と発展について、概説する。	
	6	工程管理1/2:生産計画中、特に日程計画および工数計画について、手法を運用しながら解説する。	
	7	工程管理2/2:工程分析と作業研究について、意義と手法を概説する。	
	8	科学的管理法1/2:概要と取り組む諸活動を、背景に言及しながら論じる。	
	9	科学的管理法2/2:科学的管理法以降に現れた、様々な動機付け手法について解説する。	
	10	品質管理1/2:品質管理が掲げる目的と手法を、練習問題をとりまぜながら解説する。	
	11	品質管理2/2:近年における検査および品質保証活動について、意義を概説する。	
	12	人事管理:労働者を合理的に活用する諸活動について、概説する。	
	13	労働生産性:企業活動から得られる成果を評価する一指標について、計算しながら解説する。	
	14	環境管理:自然環境に負荷を与えないように、なにをすべきか論じる。	
	15	総括:まとめ	
16	考査		
キーワード			

教科書・教材・参考書	教科書:なし。担当者が資料を配布する。 参考書:早川豊彦監修(2004)『工業管理技術』実教出版。
成績評価の方法・基準等	・考査成績:90% ・講義中に実施する小テスト:10%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.